

令和6年度 第8回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和6年12月13日（金）8：30～9：30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：8 名

有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：2 名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）、山里紘美（沖縄県保健医療介護部健康長寿課主任）

陪 席：1 名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和6年度 第7回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

【協議事項】

1. 医師に対する医療者調査について

増田部会長より、資料3に基づき、医師用の質問票（案）について説明があった。削除する部分を青字、前回から変更した部分を赤字で表示しているとのことだった。

➤ 問8 医師の専門分野の選択肢について

東委員より、外科医や麻酔で緩和の医師がいるのではないかと意見があった。協議の上、「20. 緩和」を追加することになった。また、複数回答ではなく、単一回答とする。

➤ 選択肢に「とても」を付けるかについて

平田委員より、「5. とてもそう思わない」という表現よりは「5. 全くそう思わない」が適切ではないかとの意見があった。東委員からは、ただでさえ端の選択肢を選ばない傾向がある中、「とても」を付けることでその傾向がより強くなるとの意見があったが、どちらでも間違いではないとのことだった。協議の上、選択肢に「とても」を付けないことになった。

- 問 10 の質問文について、文末を「～できていると思いますか?」「～伝えていますか?」どちらが適切かについて
東委員より、「常に」が入っているかどうかに関わらず、回答者は雰囲気で回答することに変わりはない。「できている」が「常に」というニュアンスを含んでいるとしたら、「常に」は要らないかもしれない。「常に」を強調したいのであれば、「～できていると思いますか?」ではなく「～常にしていると思いますか?」の方が適切であるとのことだった。協議の上、「常に」を省いて「～できていると思いますか?」に統一することになった。
- 問 24 の放射線に関する質問は、「質の高い最適な放射線治療を提供できていると思いますか?」とし、集学的治療に関する問いは、後日検討することになった。
- 問 27 のリハビリテーションに関する質問については、がんリハと汎用リハを分けた質問にするか、両方を含めた質問にするか、後日検討することになった。
- 問 26 の在宅医療に関する質問についても修正を検討することになった。
- 問 35 の「中部医療圏または南部医療圏」という表記を「中南部の専門医療機関」へ変更することになった。
- 問 36 の医療格差についての質問は、限定した質問に変更することになった。
- 問 24, 25, 26 の質の高い手術や治療ができていますか?について
東委員より、医師に調査すること自体、意味がないのではないかとの意見があった。回答者自身は「できている」と回答し、勤務している病院について問うた場合も「できている」と回答することがほとんどと考えられる。例えば、沖縄県全体について問うと、ある程度の意見を集めることができ、正直に答えやすいのではないか。がん対策の評価という意味では、ひとつの指標となるとのことだった。有賀委員より、評価指標に入っている質問は削除せずに、沖縄県を俯瞰するような形で質問を残した方がよいのではないかとの意見があった。それを受けて、個人、病院、県全体のどちらの視点にするか、事務局で検討することになった。

2. 看護師に対する医療者調査について

3. 薬剤師に対する医療者調査について

4. MSW に対する医療者調査について

増田部会長より、資料 4、5、6 に基づき、それぞれの質問票（案）について説明があった。

5. 歯科医師に対する医療者調査について

歯科医師に対する調査は行わないことになった。

6. その他

緩和ケア・在宅医療部会で、在宅療養支援診療所（98 件）と訪問看護ステーション（261 件）に対して調査を予定している。